

海外の畜産物の需給動向

牛 肉

米 国

26年5月の牛肉生産量は前年同月比8.1%減、26年予測も下方修正

26年6月1日時点のフィードロット飼養頭数は2.1%増

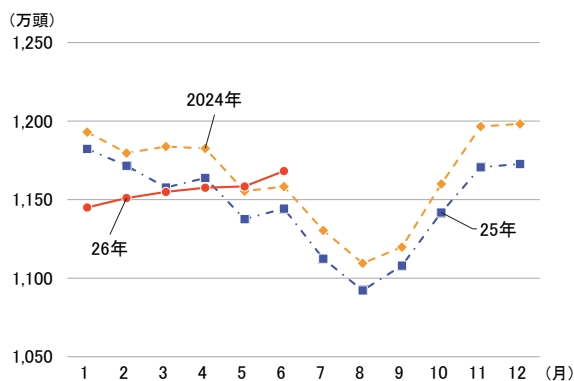
米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2026年5月の牛と畜頭数は218万4000頭（前年同月比10.7%減）とかなりの程度減少した。一方、同月の1頭当たり枝肉重量は407.8キログラム（同3.1%増）とやや増加し、と畜頭数の減少を一部相殺したが、同月の牛肉生産量は88万5000トン（同8.1%減）と、結果としてかなりの程度減少した（図1）。

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によれば、フィードロットにおいて肥育牛の出荷を留保する動きが継続しているとされており、その結果、6月1日時点のフィードロット

飼養頭数は、1168万2000頭（同2.1%増）とわずかに増加した（図2）。

26年の牛肉生産量について同局は、前月予測から5万トン引き下げ1153万8000トン（前年比2.2%減）と下方修正した。なお、同局は、6月に発生が確認されたラセンウジバエについて、フィードロットへの肥育もと牛の導入に与える影響はわずかな程度にとどまると見込んでいる。

図2 フィードロット飼養頭数の推移

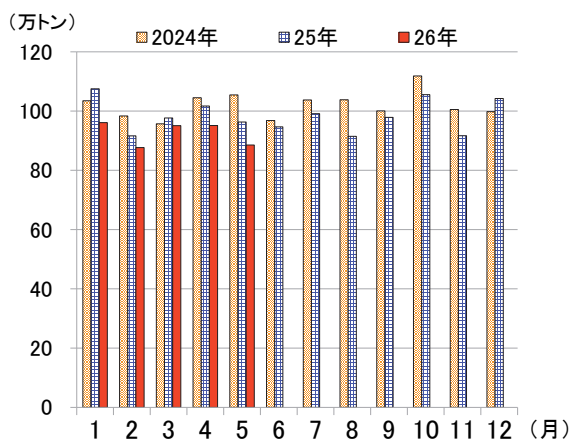


資料：USDA「Cattle on Feed」

注1：1000頭以上規模のフィードロットが対象。

注2：各月1日時点。

図1 牛肉生産量の推移



資料：USDA「Livestock and Meat Domestic Data」

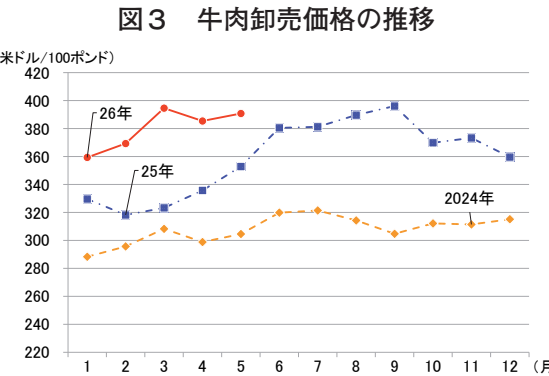
注：枝肉重量ベース。

26年5月の牛肉卸売価格は前年同月を上回って推移

USDA/ERSによると、2026年5月の牛肉卸売価格（カットアウトバリュー^{注1}）は、100ポンド当たり390.8米ドル（1キロ

グラム当たり1408円：1米ドル＝163.39円^(注2)、前年同月比10.7%高）と前年同月をかなりの程度上回った（図3）。また、肥育牛（ネブラスカの相対取引価格、チョイス級、去勢）の価格は、同259.9米ドル（同936円、同14.2%高）と前年同月をかなり大きく上回った。

（注1）各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構築した卸売指標価格。
（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年6月末TTS相場。



資料：USDA「Livestock and Meat Domestic Data」
注1：カットアウトバリュー（各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構築した卸売指標価格）。
注2：チョイス級、600～900ポンド。

26年4月の牛肉輸出量は前年同月比17.5%減

USDA/ERSによると、2026年4月の牛肉輸出量は8万8820トン（前年同月比17.5%減）と大幅に減少した（表）。中国向けについては、米国内の牛肉輸出施設の大部分で中国海関総署（GACC）による中国向け輸出に係る認可登録の更新手続きが行われていなかったことから、431トン（同93.3%減）と同国への牛肉輸出の大部分が停止している状況にあったが、26年5月15日、大部分の牛肉輸出認可施設の更新が行われたことを受け、香港など他の国・地域向けが中国向けに置き換わる可能性を見込んでいる^(注3)。

（注3）5年ごとの認可登録の更新時期を迎えていた2025年3月以降、GACCによる牛肉の輸出施設の大部分について未更新の状況が続いていた。詳細については、海外情報「米中は農畜産物貿易の拡大に合意、牛肉輸出認可施設の登録も更新（米国）」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004361.html)をご覧ください。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

国名	2025年 4月	26年 4月	前年同月比 (増減率)	輸出割合	26年 (1～4月)	
						前年同期比 (増減率)
韓国	28,635	24,396	▲14.8%	27.5%	91,144	▲9.2%
日本	27,300	19,528	▲28.5%	22.0%	79,528	▲20.2%
メキシコ	12,189	8,869	▲27.2%	10.0%	41,535	▲12.7%
カナダ	8,375	7,557	▲9.8%	8.5%	31,838	▲8.9%
香港	4,112	6,205	50.9%	7.0%	23,734	90.6%
台湾	6,183	6,126	▲0.9%	6.9%	24,150	5.5%
中国（参考）	6,397	431	▲93.3%	0.5%	2,833	▲95.3%
その他	14,409	15,707	9.0%	17.7%	59,989	12.2%
合計	107,599	88,820	▲17.5%	100.0%	354,750	▲17.7%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」
注：枝肉重量ベース。

（調査情報部）

カナダ

26年4月の牛肉輸出量は大幅増、米国や中国向けがけん引

26年1月の総飼養頭数は前年比2.5%増

カナダ統計局（Statistics Canada）によると、2026年1月1日時点の牛の総飼養頭数は1114万頭（前年比2.5%増）とわずかに増加した（表1）。内訳を見ると、繁殖雌牛（肉用牛）が前年比1.9%増、未經産牛（肉用後継牛）が同4.8%増、子牛は同4.3%増と

それぞれ増加した。カナダでは、干ばつの断続的な発生により牛飼養頭数は減少傾向で推移していたが、西部を中心に牧草地の状況が改善したことで、牛群再構築の動きが見られている。

26年の牛肉生産量について米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は、飼養頭数や平均枝肉重量の増加が見込まれることから、前年比4.4%増の132万トンと予測している。

表1 牛飼養頭数の推移

（単位：万頭）

区分	2024年	25年	26年	前年比 (増減率)
総飼養頭数	1,097	1,086	1,114	2.5%
繁殖雌牛	437	432	439	1.6%
肉用牛	340	335	342	1.9%
乳用牛	96	97	97	0.6%
未經産牛	166	165	168	2.2%
肉用後継牛	52	52	54	4.8%
乳用後継牛	41	41	41	0.1%
その他	74	72	73	1.5%
去勢牛	123	121	122	1.1%
種雄牛	20	20	20	1.6%
子牛	351	348	364	4.3%

資料：Statistics Canada
注：各年1月1日時点。

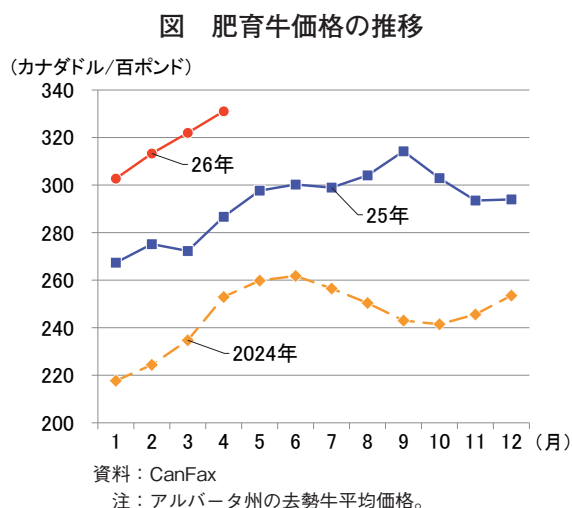
26年4月の肥育牛価格、前年同月比15.5%高

CanFax^(注1)によると、2026年4月の肥育牛価格は、100ポンド当たり331.03カナダドル（1キログラム当たり845円：1カナダドル＝115.75円^(注2)、前年同月比

15.5%高）とかなり大きく上昇した（図）。肥育牛の供給が限られる中で、堅調な牛肉の輸出需要を背景に、26年の肥育牛価格は前年を上回る水準で推移している。

（注1）カナダ肉用牛生産者協会（CCA）の市況分析部門

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年6月末TTS相場。



26年4月の牛肉輸出量、前年同月比24.2%増

カナダ統計局によると、2026年4月の牛肉輸出量は製品重量ベースで3万7961トン

(前年同月比24.2%増)と大幅に増加した(表2)。

輸出先別に見ると、輸出量の7割以上を占める米国向けは、2万7875トン(同16.6%増)と大幅に増加した。また、中国・香港向けは、3546トン(同24.8倍)となった。中国向けは、21年末におけるカナダ国内での非定型BSEの発生報告以降、輸出停止が続いていたが、26年1月15日に輸出認可施設の登録が有効化されたことにより、輸出が再開した。一方、日本向けは1443トン(同23.7%減)、韓国向けは621トン(同26.8%減)と、いずれも大幅に減少した。

26年の牛肉輸出量についてUSDAは、前年比2.7%増の57万5000トン(枝肉重量ベース)と予測している。

表2 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

国名	2025年 4月	26年 4月	前年同月比 (増減率)	構成比	26年 (1～4月)	前年同期比 (増減率)
米国	23,901	27,875	16.6%	73.4%	107,873	▲1.8%
中国・香港	143	3,546	2379.7%	9.3%	5,853	673.2%
メキシコ	2,056	2,763	34.4%	7.3%	10,067	19.8%
日本	1,892	1,443	▲23.7%	3.8%	7,981	1.0%
ベトナム	911	1,200	31.7%	3.2%	5,407	172.9%
韓国	848	621	▲26.8%	1.6%	2,265	▲53.7%
その他	816	513	▲37.1%	1.4%	2,106	▲18.4%
合計	30,567	37,961	24.2%	100.0%	141,552	3.8%

資料：Statistics Canada
注：製品重量ベース。

(調査情報部)

豪州

降雨と輸出需要で牛価格上昇、中国セーフガード発動で先行き不透明

26年6月の若齢牛価格、継続する降雨を背景に価格の上昇止まらず

豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）によると、肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、直近2026年6月28日時点で1キログラム当たり1019豪セント（1157円：1豪ドル＝113.56円^{（注1）}）と、1000豪セントの大台を突破した（図1）。

現地報道によると、5月からの継続的な降雨により牧草の生育状態が良好であることを背景として、牧草肥育業者の需要が高まっており、フィードロット業者と若齢牛の確保競争が激化しているとされている。

一方、今後の見通しについて、次の四半期（7～9月）は、1）中国の豪州産輸入牛肉に対するセーフガード（以下「SG」という）および韓豪の自由貿易協定（FTA）に基づく豪州産輸入牛肉に対する特別SGの発動、2）中国のブラジル産輸入牛肉に対するSG

発動による影響で他市場に仕向けられるブラジル産牛肉との競合—などの不確定要素が多く、牛価格は下落局面に転じる可能性がある」と報じられている。

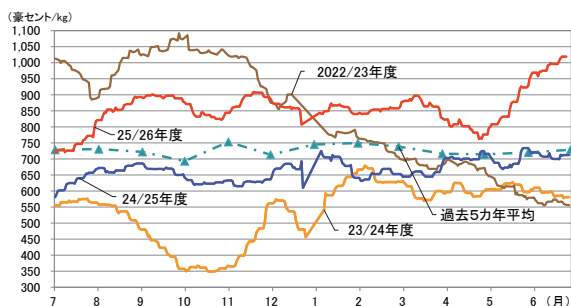
（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年6月末TTS相場。

26年6月第3週のと畜頭数は前年同期比1.7%増、牛価格の上昇が懸念材料

2026年6月第3週の成牛と畜頭数は、15万6022頭（前年同期比1.7%増）と、引き続き高水準で推移している（図2）。

一方、業界関係者によると、牛価格の高値傾向に伴い、現在の肥育もと牛の価格では採算が取れないとして、肥育群の補充を行わないフィードロット業者も出てきているとされており、今後のと畜頭数に影響する可能性がある。

図1 EYCI価格の推移

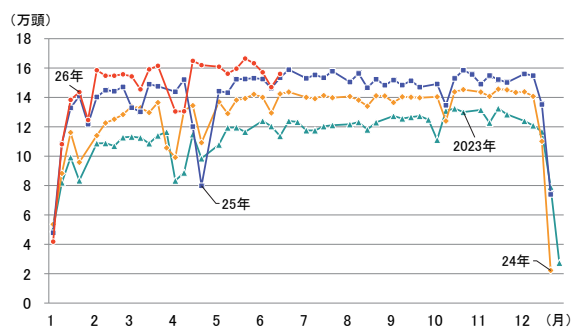


資料：MLA「National Livestock Reporting Service」

注1：年度は7月～翌6月。

注2：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部3州（クィーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格（枝肉重量ベース）。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

図2 成牛と畜頭数の推移（週間報告）



資料：MLA「National Livestock Reporting Service」

注1：成牛のみ（子牛は含まない）。

注2：年末および3～4月ごろの減少は、祝日などの休暇に伴うと畜場休業によるもの。

26年5月牛肉輸出量は過去最高を更新も、中国がセーフガード発動

豪州農林水産省（DAFF）によると、

2026年5月の牛肉輸出量は15万2438トン（前年同月比17.7%増）と、単月の数値としては過去最高を記録した（表）。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

国名	2025年 5月	26年 5月	前年同月比 (増減率)	26年 (1～5月)	前年同期比 (増減率)
米国	38,431	47,034	22.4%	193,990	15.7%
韓国	17,409	29,886	71.7%	109,404	33.1%
中国	23,877	27,187	13.9%	133,331	30.7%
日本	19,803	21,160	6.9%	100,114	4.4%
東南アジア	12,603	9,740	▲ 22.7%	44,714	▲ 16.5%
中東	3,627	3,578	▲ 1.4%	13,720	▲ 6.7%
E U	2,215	2,923	32.0%	12,672	69.9%
その他	11,512	10,930	▲ 5.1%	50,636	14.7%
輸出量合計	129,477	152,438	17.7%	658,581	16.0%

資料：DAFF

注1：船積重量ベース。

注2：東南アジアは次の国の合計。フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア。

注3：中東は次の国の合計。イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦（七つの首長国のうち四つ（アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラアス・アル＝ハイマ））。

5月の輸出量を輸出先別に見ると、米国向けは4万7034トン（同22.4%増）と大幅に増加しており、引き続き輸出量の約3割を占める最大の輸出先となっている。

米国に次ぐ輸出先となった韓国向けも2万9886トン（同71.7%増）と大幅に増加し、単月の数値としては過去最高を記録した。26年6月29日時点で、韓豪FTAに基づく韓国の豪州産牛肉の輸入に対する特別SG枠^{（注2）}の消化率は92.3%に達しており、MLAは過去最速のSG発動を見越した輸出業者の積極的な出荷計画が反映されたものと分析している。

三番手の輸出先である中国向けは、2万7187トン（同13.9%増）とかなり大きく増加した。一方、SG発動基準数量を超過したことにより、6月20日から同国に輸入

される牛肉に55%の追加関税が課せられたことから、今後の輸出を不安視する見方が広がっている^{（注3）}。現地報道によると、一部の需要部位は輸入継続の余地があるものの、事実上、対中向け輸出は停止状態にあるとされている。また、この影響は豪州国内にも及んでおり、中国向けの牛肉が国内市場に流入し、特にロイン系などの高級部位の価格に15～20%の下落が見られるほか、米国や日本など他の輸入先も、今後の価格下落を見込んだ買い控えの動きが出ているとされている。

（注2）詳細については、海外情報「韓豪FTAは2014年内に発効予定、豪州牛肉産業に恩恵（豪州）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_001150.html）をご参照ください。

（注3）詳細については、海外情報「中国、豪州産牛肉に対しセーフガードを発動（豪州）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004383.html）をご参照ください。

（調査情報部）

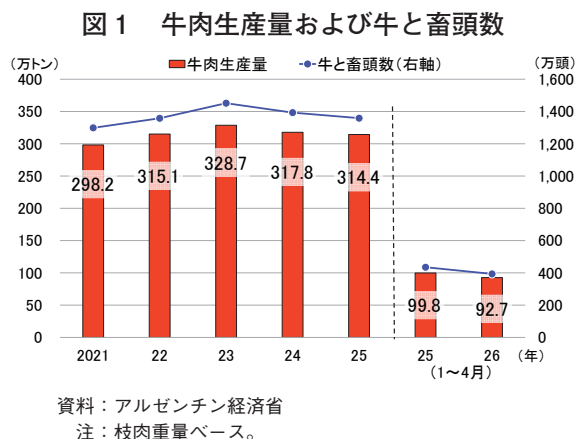
アルゼンチン

26年1～4月の牛肉生産量は減少ながら、輸出量は増加

26年1～4月の牛肉生産量は前年同期比7.1%減

アルゼンチン経済省によると、2026年1～4月の牛と畜頭数は393万6000頭（前年同期比9.5%減）、牛肉生産量は92万7000トン（同7.1%減）と、いずれも前年同期をかなりの程度下回った（図1）。

米国農務省（USDA）によると、肥育牛出荷価格が高値にあることから、トウモロコシ給与による肥育期間が長期化しており、1頭当たりの枝肉重量は増加しているものの、と畜頭数の減少を補い切れず、26年の牛肉生産量は308万トン程度にとどまると見込まれている。



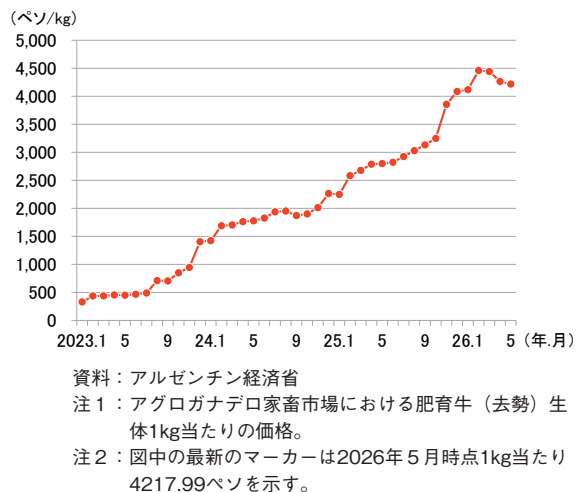
26年5月の肥育牛出荷価格は前年同月比50.7%高

アルゼンチンの肉用牛相対取引の指標となるアグロガナデロ家畜市場の2026年5月の肥育牛（去勢）出荷価格は、1キログラム当たり4217.99ペソ（464円：1ペソ＝0.11円^注、前年同月比50.7%高）となった（図2）。

アルゼンチン食肉および食肉加工品商工会議所（CICCRA）によると、22年から25年半ばまで続いた干ばつや洪水の影響により牛群の縮小が進んだことが、牛肉供給不足の一因であり、このことが肥育牛出荷価格の大幅な上昇につながったとしている。なお、アルゼンチン経済省によると、同国の牛飼養頭数は、22年12月の5424万3000頭から年々減少し、25年12月には5092万1000頭（22年比6.1%減）となった。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年6月末のTTS相場および現地参考為替相場（Selling）。

図2 肥育牛（去勢）の出荷価格の推移



26年1～4月の牛肉輸出量は米国向けが大幅増

2026年1～4月の牛肉輸出量は、20万5974トン（前年同期比6.8%増）と前年同期をかなりの程度上回った（表）。

輸出先別に見ると、最大の輸出先である中国向けは12万8699トン（同1.0%減）と

前年同期をわずかに下回ったのに対し、米国向けは3万2378トン（同2.2倍）と前年同期を大幅に上回った。

26年2月、米国のトランプ大統領は、アルゼンチン産牛肉の関税割当枠の数量を一時的に8万トン追加する大統領布告を発表した。USDAによれば、この措置の対象となる赤身牛肉は加工向けのトリミング、ブロック肉などに限定され、アルゼンチンから中国

向けに輸出される製品と類似している。また、中国向けと比較して米国向けは、1）販売価格の水準が高いこと、2）関税割当枠内・外のいずれも輸入関税率が大幅に低いこと、3）輸送に要する期間がおよそ半分であることから、同措置の対象となる輸出品目について、アルゼンチンの輸出業者は米国市場を優先しているとされる。

表 牛肉輸出量および輸出額

国名	2025年1～4月			26年1～4月			前年同期比（増減率）		
	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/kg）	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/kg）	輸出量	輸出額	単価
中国	130,049	424,968	3.27	128,699	562,127	4.37	▲ 1.0%	32.3%	33.7%
米国	14,540	99,141	6.82	32,378	265,954	8.21	122.7%	168.3%	20.5%
イスラエル	17,527	129,108	7.37	18,978	196,227	10.34	8.3%	52.0%	40.4%
ドイツ	7,339	87,343	11.90	7,955	120,485	15.15	8.4%	37.9%	27.3%
オランダ	5,489	59,256	10.80	6,154	86,109	13.99	12.1%	45.3%	29.6%
チリ	6,618	51,529	7.79	5,076	48,929	9.64	▲ 23.3%	▲ 5.0%	23.8%
ブラジル	1,594	17,751	11.14	1,683	20,607	12.25	5.6%	16.1%	10.0%
イタリア	2,204	22,269	10.11	1,313	19,411	14.79	▲ 40.4%	▲ 12.8%	46.3%
カナダ	2,254	10,695	4.75	755	3,789	5.02	▲ 66.5%	▲ 64.6%	5.8%
その他	5,218	43,024	8.25	2,986	37,476	12.55	▲ 42.8%	▲ 12.9%	52.2%
合計	192,830	945,086	4.90	205,974	1,361,114	6.61	6.8%	44.0%	34.8%

資料：「Global Trade Atlas」
注1：製品重量ベース。
注2：HSコード0201、0202の合計。

（調査情報部）

豚 肉

米 国

26年4月の豚肉輸出量、日本など主要輸出国の強い引き合いにより5.6%増

26年6月の豚総飼養頭数、前年比で横ばい

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2026年6月1日時点の豚総飼養頭数は、7366万4000頭（前年比0.0%減）と前年比で横ばいとなった（表1）。内訳を見ると、繁殖豚は588万頭（同1.2%

減）とわずかに減少し、肥育豚は6778万4000頭（同0.1%増）と前年並みとなった。また、3～5月期の産子数については、分娩母豚頭数が前年同期からわずかに減少（前年同期比1.0%減）したものの、1腹当たり産子数が11.9頭（同1.0%増）となったことから、3352万1000頭（同0.0%増）と前年並みであった。

表1 豚飼養頭数の推移

（単位：万頭）

区分	2024年	25年	26年	前年比 (増減率)
総飼養頭数（6月1日時点）	7,489	7,370	7,366	▲0.0%
繁殖豚	601	595	588	▲1.2%
肥育豚	6,888	6,775	6,778	0.1%
50ポンド（23kg）未満	2,128	2,110	2,111	0.0%
50～119ポンド （23～53kg）	1,940	1,917	1,907	▲0.5%
120～179ポンド （54～81kg）	1,519	1,483	1,490	0.5%
180ポンド（82kg）以上	1,302	1,266	1,271	0.4%
分娩母豚頭数（3～5月）	292	285	282	▲1.0%
産子数（3～5月）	3,374	3,351	3,352	0.0%
1腹当たり産子数（3～5月）（頭）	11.6	11.8	11.9	1.0%

資料：USDA [Hogs and Pigs]

注1：計数は、四捨五入のため、合計において一致しない場合がある。

注2：産子数には事故などで死亡した子豚を含まない。

26年5月の豚肉生産量、前年同月比4.4%減

USDA/NASSによると、2026年5月の豚と畜頭数は、976万6900頭（前年同月比5.7%減）と前年同月をやや下回った。

一方、1頭当たりの平均枝肉重量は98.9キログラム（同0.9%増）と増加し、と畜頭数の減少を一部相殺したことで、同月の豚肉生産量は97万733トン（同4.4%減）にとどまった。（図1）。

図1 豚肉生産量の推移

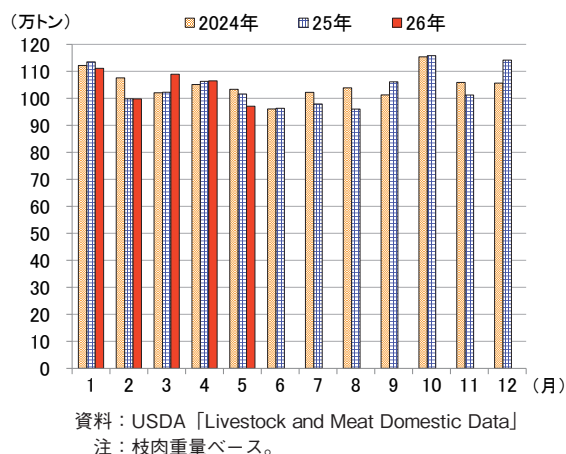
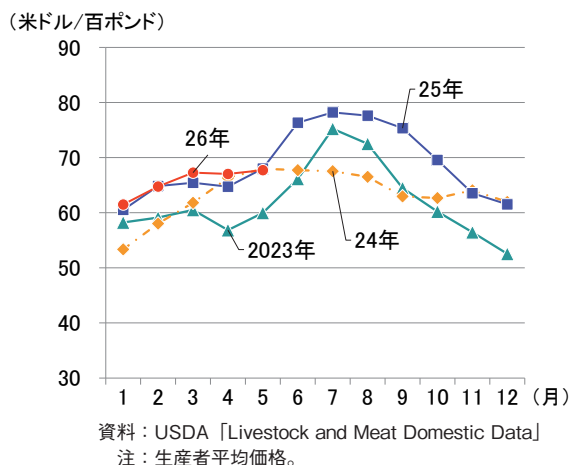


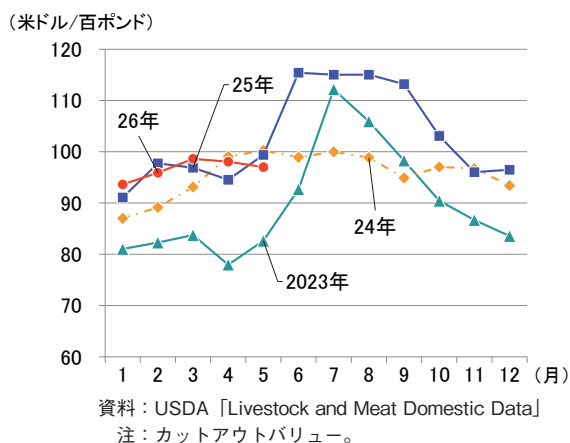
図2 肥育豚価格の推移



5月の肥育豚価格は、堅調な国内需要などを背景に100ポンド当たり67.72米ドル（1キログラム当たり244円：1米ドル＝163.39円^{（注1）}、同0.0%安）と前年同月並み、前月比では1.0%高とわずかに上昇した（図2）。同月の豚肉卸売価格（カットアウトバリュー^{（注2）}）は、同97.01米ドル（同349円、同2.4%安）と前年同月をわずかに下回り、前月比でも1.1%安となった（図3）。こうした下落要因についてUSDAは、「今年の価格下落は主としてバラ部位の需要に起因しており、この点では例年と比較して特異的な傾向を示している。一般的に、バラ肉の主要加工品であるベーコンは、休暇シーズンの開始やファストフード需要の拡大により春季後半に需要が強含む傾向にあるためである。こうした中、今年はガソリン価格の高騰が消費者行動に影響し、遠出を控えて自宅でのバーベキュー需要へシフトしている可能性が考えられる」とコメントしている。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年6月末TTS相場。
（注2）各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構築した卸売指標価格。

図3 豚肉卸売価格の推移



26年4月の豚肉輸出量、前年同月比5.6%増

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2026年4月の豚肉輸出量は主要輸出先における需要が強まり、27万9086トン（前年同月比5.6%増）とやや増加した（表2）。最大の輸出先となるメキシコ向けは、9万8534トン（同5.8%増）とやや、日本向けは4万6152トン（同8.4%増）とかなりの程度、カナダ向けは1万6269トン（同54.5%増）と大幅に、それぞれ増加した。日本は、国産豚肉価格の高止まりに加え、アフリカ豚熱（ASF）の発生に伴うスペインからの供給減少により、その代替供給元と

して米国産豚肉の需要が高まっている。

26年 1 ～ 4 月の豚肉輸出量は111万
4763トン（前年同期比3.9%増）と堅調な
動きを示しており、食品価格が上昇している

各国で価格が高い牛肉から手頃な価格である
豚肉や鶏肉へ需要がシフトしていることがう
かがえる。

表2 輸出先別豚肉輸出量の推移

（単位：トン）

国名	2025年 4月	26年 4月			26年 (1～4月)	前年同期比 (増減率)
			前年同月比 (増減率)	輸出割合		
メキシコ	93,137	98,534	5.8%	35.3%	419,777	5.2%
日本	42,590	46,152	8.4%	16.5%	173,380	16.8%
韓国	34,092	31,125	▲8.7%	11.2%	114,774	▲2.0%
カナダ	10,529	16,269	54.5%	5.8%	74,458	10.4%
中国	14,594	14,945	2.4%	5.4%	58,392	▲15.3%
コロンビア	15,212	13,412	▲11.8%	4.8%	53,944	▲8.7%
豪州	10,801	10,177	▲5.8%	3.6%	34,885	▲21.8%
香港	949	690	▲27.3%	0.2%	3,243	▲0.7%
その他	42,503	47,783	12.4%	17.1%	181,910	10.1%
合計	264,408	279,086	5.6%	100.0%	1,114,763	3.9%

資料：USDA 「Livestock and Meat International Trade Data」

注1：枝肉重量ベース。

注2：計数は、四捨五入のため、合計において一致しない場合がある。

（調査情報部）

E U

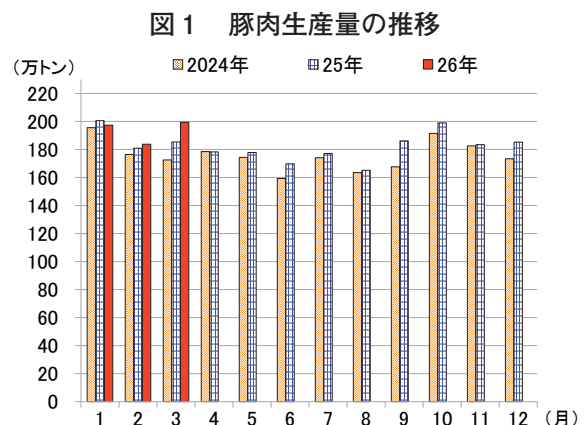
26年 1 ～ 3 月の豚肉生産量は前年比2.4%増

26年 3 月の豚肉生産量は前年同月比 7.6%増

欧州委員会によると、2026年3月の豚肉
生産量（EU27カ国）は199万4000トン（前
年同月比7.6%増）となり、前年同月をかな
りの程度上回った（図1、表1）。豚と畜頭
数が2047万頭（同7.2%増）と前年同月を
かなりの程度上回ったこと、1頭当たりの枝
肉重量が97.42キログラム（同0.4%増）と
わずかに増加したことが生産量の増加につな
がった。

26年累計（1～3月）の生産量は、580

万5000トン（前年同期比2.4%増）とわず
かに増加した。



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：枝肉重量ベース。

表1 主要生産国別豚肉生産量

(単位：万トン)

国名	2025年 3月	26年 3月	前年同月比 (増減率)	26年 (1～3月)	前年同期比 (増減率)
スペイン	44.9	49.5	10.3%	148.9	5.5%
ドイツ	37.4	38.1	1.9%	111.4	▲0.0%
フランス	17.4	18.5	6.6%	54.0	1.5%
ポーランド	16.6	19.6	18.1%	53.6	7.4%
オランダ	12.3	11.8	▲3.8%	35.3	▲8.0%
デンマーク	11.8	13.5	14.1%	39.4	8.5%
イタリア	11.5	12.3	7.1%	34.3	▲0.0%
その他	33.4	36.0	7.8%	103.6	1.5%
合計	185.3	199.4	7.6%	580.5	2.4%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注：枝肉重量ベース。

26年1～3月の生産量を主要生産国に見ると、厳格な環境規制の影響で飼養頭数の減少が続くオランダ（同8.0%減）が減少したものの、1頭当たりの枝肉重量およびと畜頭数が増加したスペイン（同5.5%増）、と畜頭数が増加したデンマーク（同8.5%増）などが増加した。

一方で、肥育豚の頭数に影響する26年1～4月の子豚輸出頭数がオランダ（同47.7%減）やデンマーク（同21.6%減）で大幅に減少していることから、生産量は欧州委員会の予測^(注1)にあるように、今年中に調整局面に移る可能性が高いとみられる。

(注1) 2026年5月に更新された欧州委員会の年次予測では、26年の豚肉生産量は、前年から1.0%減少と発表。

26年5月の豚枝肉卸売価格は前年同月を大幅に下回る

欧州委員会によると、2026年5月の豚枝肉卸売価格（EU27カ国）は、1キログラム当たり1.62ユーロ（303円：1ユーロ＝186.85円^(注2)、前年同月比22.4%安）と、前年同月を大幅に下回った（図2）。価格は

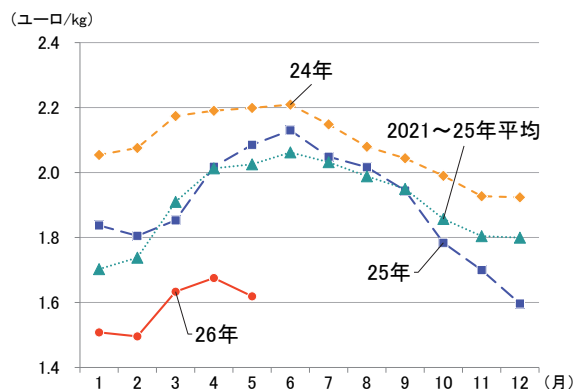
28カ月連続で前年同月を下回っている。

この背景として、生産量の減少ペースが鈍化しているほか、中国によるEU産豚肉に対するアンチダンピング関税の賦課^(注3)などに伴い、出荷先がアジア向けからEU域内向けに変更されたことなどを受け、同域内の需給が緩和していることなどがある。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年6月末TTS相場。

(注3) 海外情報「EU産豚肉に対し中国がアンチダンピング関税賦課を開始（EU、中国）」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004272.html)をご参照ください。

図2 豚枝肉卸売価格の推移



資料：欧州委員会「Meat Market Observatory-Pigmeat」

注：EU（CLASS E）平均価格。

26年4月の豚肉輸出量は前年同月比0.3%減

欧州委員会によると、2026年4月のEU域外への豚肉輸出量（EU27カ国）は、16万8252トン（前年同月比0.3%減）と前年同月並みとなった（表2）。アンチダンピング関税の影響が続く中国向け（同29.0%減）、スペインでのアフリカ豚熱（ASF）発生に

伴う輸入停止措置が継続されている日本向け（同19.0%減）などの主要輸出先向けの減少が続いている。なお、フィリピン向け（同17.4%減）も減少しているが、ASFの地域主義（ゾーニング）に基づく輸入条件が整備され、未発生の低リスク地域で26年5月8日以降にと畜された豚肉については、輸入停止措置が解除されている。

表2 輸出先別豚肉輸出量（EU域外向け）

（単位：トン）

国名	2025年 4月	26年 4月	前年同月比 (増減率)	輸出割合	26年 (1～4月)	前年同期比 (増減率)
韓国	19,434	29,421	51.4%	17.5%	124,086	52.3%
中国	40,046	28,426	▲29.0%	16.9%	120,769	▲27.7%
英国	27,292	23,458	▲14.0%	13.9%	100,191	▲7.1%
日本	22,144	17,926	▲19.0%	10.7%	69,930	▲25.6%
フィリピン	9,979	8,247	▲17.4%	4.9%	38,069	▲0.4%
その他	49,892	60,774	21.8%	36.1%	281,537	26.8%
合計	168,787	168,252	▲0.3%	100.0%	734,582	3.4%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：製品重量ベース。

注2：HSコードは0203。

（調査情報部）

中国

豚の適正飼養頭数への削減進まず、4月の繁殖雌豚頭数は公表なし

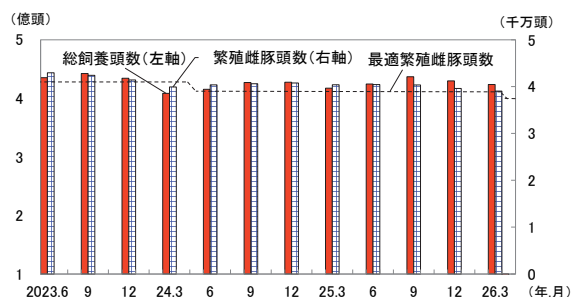
26年4月末の繁殖雌豚頭数、公表なし

中国農業農村部が前年まで毎月公表していた繁殖雌豚頭数は、2026年4月末の数値の公表がなかった（図1）。農業農村部は26年5月14日に、同部が最適な飼養水準とする繁殖雌豚頭数を3750万頭に引き下げる通知を主要な養豚企業に向けて発表^{（注1）}したが、現地報道では、同年9月末までに同水準値

まで引き下げることが困難なことから、市場の混乱を避けるために毎月の公表を控えているとされている。なお、第1四半期の飼養頭数は3904万頭であり、水準値まで約154万頭の削減が求められている。

（注1）詳しくは海外情報「中国農業農村部、豚の飼養頭数調整のための方策を再改訂」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004375.html）をご参照ください。

図1 豚飼養頭数の推移



資料：中国国家統計局

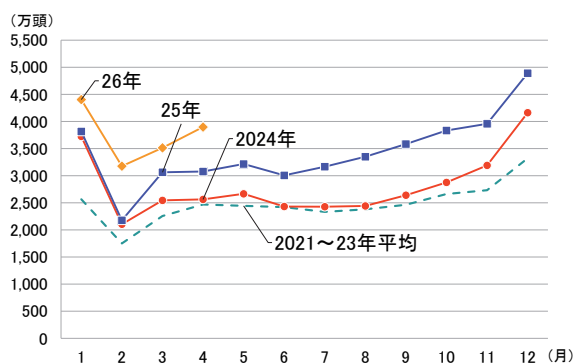
注1：四半期ごとの公表値。

注2：2026年5月14日に中国農業農村部は「豚生産能力管理調整方策」を改訂し、最適繁殖雌豚頭数を3900万頭程度から3750万頭程度に引き下げた。

26年4月の豚と畜頭数、前年同月比26.7%増

2026年4月の豚と畜頭数は、3898万頭（前年同月比26.7%増）と大幅に増加した（図2）。25年に続き26年も前年を上回っており、と畜頭数は高水準を維持している。なお、中国農業農村部が26年6月24日に公表した「農産物需給動向分析月報（2026年5月）」（以下「月報」という）によると、養豚企業の出荷頻度が高いことから、生体豚の出荷体重は低下しているという。

図2 豚と畜頭数の推移



資料：中国農業農村部

注：年間2万頭以上処理すると畜場でのと畜頭数（全体のと畜頭数の約3割）。

26年5月の豚肉小売価格、前月比1.7%安

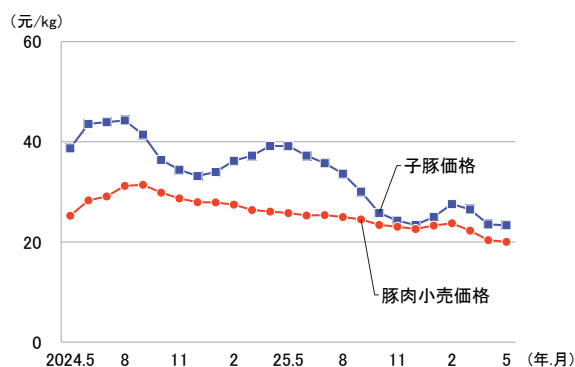
2026年5月の豚肉小売価格は、1キログラム当たり20.0元（483円：1元＝24.17円^{（注2）}、前月比1.7%安、前年同月比22.3%安）となった（図3）。

また、豚肉生産にも影響する同月の子豚価格は同23.4元（566円、前月比0.6%安、前年同月比40.3%安）となった。

今後の価格について、月報によると、25年9月以降の繁殖雌豚の飼養頭数削減により、26年3月以降は子豚頭数も継続して減少していることから、子豚価格の下落圧力は緩和するとされている。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年6月末TTS相場。

図3 豚肉および子豚価格の推移



資料：中国農業農村部

26年1～5月の豚肉輸入量、前年同期比29.2%減

2026年1～5月の豚肉輸入量（製品重量ベース）は、31万3636トン（前年同期比29.2%減）と前年同期から大幅に減少した。これを輸入先別に見ると、上位7カ国すべての主要輸入先で前年同期を下回った（表）。

中国農業展望報告によると、26年の輸入量は、25年から8.2%の減少が予測されている^(注3)。

(注3) 詳しくは海外情報「中国農業展望報告（2026－2035）を発表（豚肉編）（中国）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004380.html）をご参照ください。

表 主要輸入先別豚肉輸入量の推移

(単位：トン)

国名	2024年	25年	25年 (1～5月)	26年 (1～5月)	前年同期比 (増減率)
スペイン	289,907	283,630	122,390	97,288	▲20.5%
ブラジル	236,989	153,564	81,588	43,742	▲46.4%
英国	61,928	71,921	29,498	25,876	▲12.3%
チリ	64,730	68,175	32,108	24,495	▲23.7%
米国	69,929	55,697	31,530	22,100	▲29.9%
カナダ	76,106	66,758	34,252	19,174	▲44.0%
デンマーク	60,771	64,302	26,674	17,972	▲32.6%
その他	189,529	200,511	84,800	62,988	▲25.7%
合計	1,049,889	964,558	442,839	313,636	▲29.2%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは0203。

(調査情報部)

鶏 肉

タイ

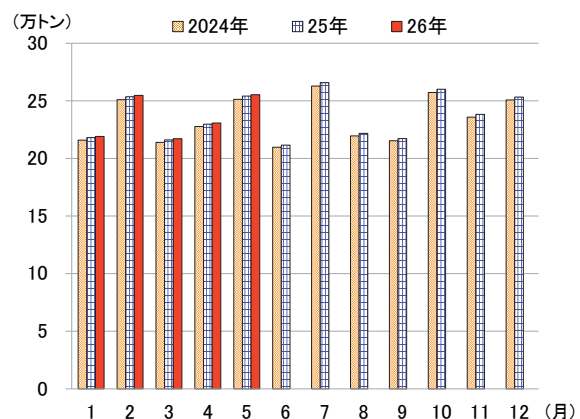
26年1～5月の鶏肉生産量は前年同期比0.5%増加、増加率は縮小

26年1～5月の鶏肉生産量、前年同期比0.5%増加

タイ農業協同組合省農業経済局によると、2026年1～5月の鶏肉生産量は117万6931トン（前年同期比0.5%増）とわずかに増加した（図1）。増加率は、前年同期に比べ0.5ポイント縮小しており、これについて現地専門家によると、1）中東情勢の悪化による輸入飼料価格の高騰、2）25年初頭の原種鶏の輸入先における鳥インフルエンザの発生による供給の停滞、3）高温による

増産率の低下が要因とされている。

図1 鶏肉生産量の推移

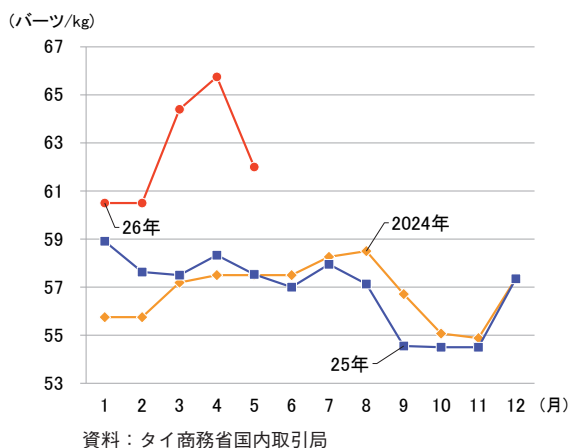


資料：タイ農業協同組合省農業経済局

26年5月の鶏肉卸売価格、前年同月比7.8%高

2026年5月の鶏肉卸売価格は、1キログラム当たり62.00パーツ（308円：1パーツ＝4.96円^{（注）}、前年同月比7.8%高）とかなりの程度上昇した（図2）。現地専門家によると、26年初頭の供給量の減少から高値傾向で推移し、需要が高まるタイの旧正月（ソンクラーン）を迎える4月には、65.75

図2 鶏肉卸売価格の推移



パーツ（326円、同12.8%高）まで上昇し、その後、5月には需要が落ち着き下落したが、依然として高値で推移しているとされる。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年6月末TTS相場。

26年1～4月の冷凍鶏肉の輸出量、前年同期比9.9%減

2026年1～4月の冷凍鶏肉の輸出量は、14万5241トン（前年同期比9.9%減）とかなりの程度減少した（表1）。このうち中国向けは、中国政府が25年8月1日から中国向け輸出基準の不適合を理由に実施した、一部のタイ鶏肉加工企業に対する輸入停止措置により、1万5733トン（同60.6%減）と大幅に減少した。アラブ首長国連邦向けについては、中東情勢の悪化による輸送経路上の問題により、3979トン（同37.7%減）と大幅に減少した。

表1 輸出先別冷凍鶏肉輸出量の推移

（単位：トン）

国名	2024年	25年	25年 (1～4月)	26年 (1～4月)	前年同期比 (増減率)
日本	178,589	182,610	63,166	67,715	7.2%
マレーシア	91,466	113,668	32,426	37,966	17.1%
中国	112,975	92,363	39,928	15,733	▲60.6%
韓国	21,993	34,809	6,785	7,419	9.3%
アラブ首長国連邦	9,786	25,206	6,384	3,979	▲37.7%
その他	45,914	48,196	12,459	12,428	▲0.2%
合計	460,723	496,853	161,150	145,241	▲9.9%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは020714。

26年1～4月の鶏肉調製品の輸出量、前年同期比2.4%増

2026年1～4月の鶏肉調製品輸出量は、23万1061トン（前年同期比2.4%増）とわ

ずかに増加した（表2）。このうち日本向けは、堅調な外食需要や消費者による牛肉の代替需要などを背景に堅調に推移し、10万2055トン（同4.6%増）とやや増加した。

表2 輸出先別鶏肉調製品輸出量の推移

(単位：トン)

国名	2024年	25年	25年 (1～4月)	26年 (1～4月)	前年同期比 (増減率)
日本	300,831	311,286	97,522	102,055	4.6%
英国	199,178	202,393	67,591	63,852	▲5.5%
オランダ	45,105	47,780	16,703	19,296	15.5%
韓国	29,357	26,606	7,960	9,067	13.9%
その他	102,774	111,843	35,939	36,790	2.4%
合計	677,244	699,908	225,715	231,061	2.4%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは160232。

(調査情報部)

牛乳・乳製品

E U

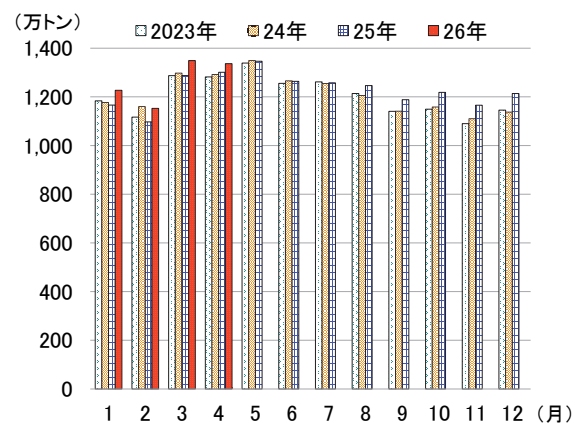
生乳取引価格は前月割れも、生乳出荷量は増加基調が継続

26年4月の生乳出荷量は前年同月比2.7%増

欧州委員会によると、2026年4月の生乳出荷量（EU27カ国）は前年同月比2.7%増の1336万トンとなり、前年同月をわずかに上回った（図1、表1）。主要生産国はいずれも前年同月を上回り、増産基調が継続しているものの、4月の増加率は前月に比べると縮小した。中でもフランスは前月から4.1ポイント低下し、増加率は1.1%となった。同国の農業系政府機関であるフランス・アグリメール（FranceAgriMer）によると、生乳出荷量のピークが、26年については例年に比べ早期化しているという。現地報道によれば、25年のブルータンクの発生により受胎率

が低下し、分娩時期にずれが生じたことに加え、冬季終盤の気温が平年以上で降雨も安定していたことから、牧草の生育が早まっていることなどが背景にあるとされている。

図1 生乳出荷量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

表1 主要生産国別生乳出荷量の推移

(単位：万トン)

国名	2025年 4月	26年 4月	前年同月比 (増減率)	26年 (1～4月)	前年同期比 (増減率)
ドイツ	275	291	6.0%	1,136	6.7%
フランス	215	217	1.1%	854	4.5%
オランダ	118	122	4.0%	483	5.4%
ポーランド	117	121	3.7%	472	3.2%
イタリア	114	118	3.3%	471	7.0%
その他	462	466	0.9%	1,649	2.2%
合計	1,301	1,336	2.7%	5,065	4.4%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

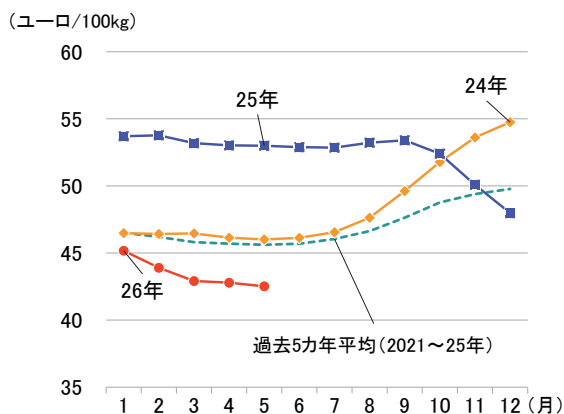
注3：四捨五入により、各国の計と合計欄は一致しないことがある。

26年5月の生乳取引価格、前月割れが継続

欧州委員会によると、2026年5月の生乳取引価格（EU27カ国平均）は、100キログラム当たり42.52ユーロ（1キログラム当たり79円：1ユーロ＝186.85円^(注)、前年同月比19.8%安）となった（図2）。25年10月以降、生乳出荷量の増加が価格の下落圧力となっており、8カ月連続で前月を下回った。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年6月末TTS相場。

図2 生乳取引価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

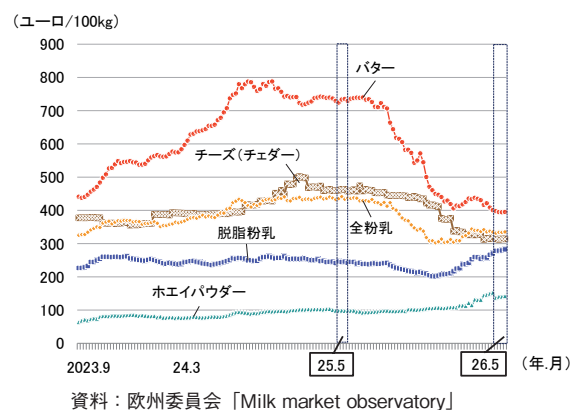
注1：直近月は推定値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

世界的な需給のひっ迫により、脱脂粉乳は上昇の傾向

欧州委員会によると、2026年5月31日の週の乳製品価格（EU27カ国平均）は、バターが100キログラム当たり395ユーロ（1キログラム当たり738円、前年同期比45.8%安）、全粉乳が同335ユーロ（同626円、同23.3%安）、チーズが同314ユーロ（同587円、同31.4%安）といずれも前年同期を大幅に下回った（図3）。英国農業・園芸開発委員会（AHDB）によると、バターについて、在庫水準が高めとみられていることが価格の重しとなっていることに加え、

図3 乳製品価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

ユーロ高や中東情勢の影響による輸出制約を背景に価格が低下しているとされる。一方、脱脂粉乳は同283ユーロ（同529円、同16.6%高）、ホエイパウダーは同143ユーロ（同267円、同44.5%高）と、いずれも前年同期を大幅に上回った。AHDBによると、脱脂粉乳は世界的な在庫の縮小、たんぱく質需要の高まり、価格競争力の向上による輸出増加を背景に、価格が上昇している。

米国農務省農業マーケティング局（USDA/AMS）によると、乳製品価格の下落は鈍化しており、これが生乳出荷量の増加を下支えしているという。市場関係者は、今後数カ月間の生乳出荷量や乳製品輸出量、乳製品価格の動向を引き続き注視していくとしている。

（調査情報部）

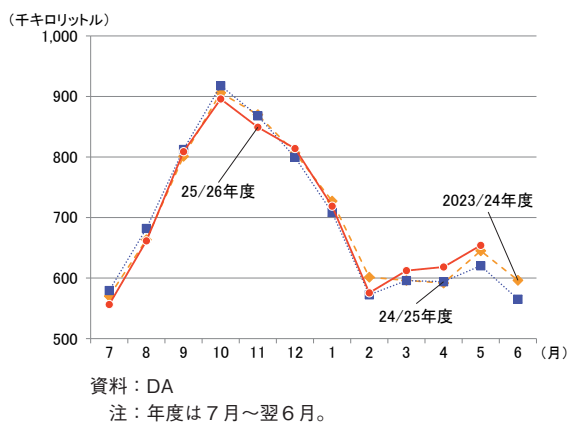
豪州

生乳生産量は6カ月連続で前年同月比増、輸出量は主要3品目で減少

26年5月の生乳生産量、前年同月比5.4%増

デイリー・オーストラリア（DA）が2026年5月に公表した「Milk Production Reports」によると、同年5月の生乳生産量は65万4041キロリットル（67万3662トン相当、前年同月比5.4%増）とやや増加し、6カ月連続で前年同月を上回った（図1）。

図1 月別生乳生産量の推移



25/26年度（7月～翌6月）5月までの生乳生産量は、776万4924キロリットル（799万7872トン相当、前年同期比0.2%増）

と前年同期並みとなった。DAが26年6月に公表した「Situation and Outlook」では、同年度の生乳生産量は、11月までの5カ月間で前年同月を下回って推移していた。12月以降は、天候条件の改善や飼料価格の緩和などを背景に増加傾向で推移していることから、年度全体では前年度比1.0%減と見込んでいる。

26/27年度の生産者支払乳価は引き上げ

2026/27年度当初の生産者支払乳価は、乳業各社も生産コスト高により苦しい経営環境にある中、生乳の固形分^{（注1）}1キログラム当たり9.15豪ドル（1039円：1豪ドル＝113.56円^{（注2）}、前年比2.9%高）程度と高値が提示された^{（注3）}。

（注1）乳脂肪分および乳たんぱく質

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年6月末TTS相場。

（注3）詳細は、海外情報「新年度乳価は控えめな提示、酪農家に冷静な経営判断呼びかけ（豪州）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004376.html）をご参照ください。

26年4月の主要乳製品の輸出量はチーズを除く主要3品目で減少

DAが2026年5月に公表した「Dairy Export Summary」によると、同年4月の主要乳製品の輸出量はチーズを除く3品目でいずれも減少した（表、図2）。

脱脂粉乳は、輸出量全体に占める割合が高い輸出先であるインドネシア向けが大幅に増加したものの、中国や東南アジア向けが減少したことにより、前年同月比18.8%減と

大幅に減少した。全粉乳は、輸出量全体に占める割合が高い中国やアラブ首長国連邦向けがいずれも大幅に減少したことにより、同23.6%減と大幅に減少した。バターおよびバターオイルは、マレーシアなどのアジア向けが大幅に減少したことにより、同28.2%減と大幅に減少した。また、チーズは、輸出量全体に占める割合が高い日本向けが大幅に減少したものの、フィリピンやマレーシア向けが増加したことにより、同0.5%増とわずかに増加した。

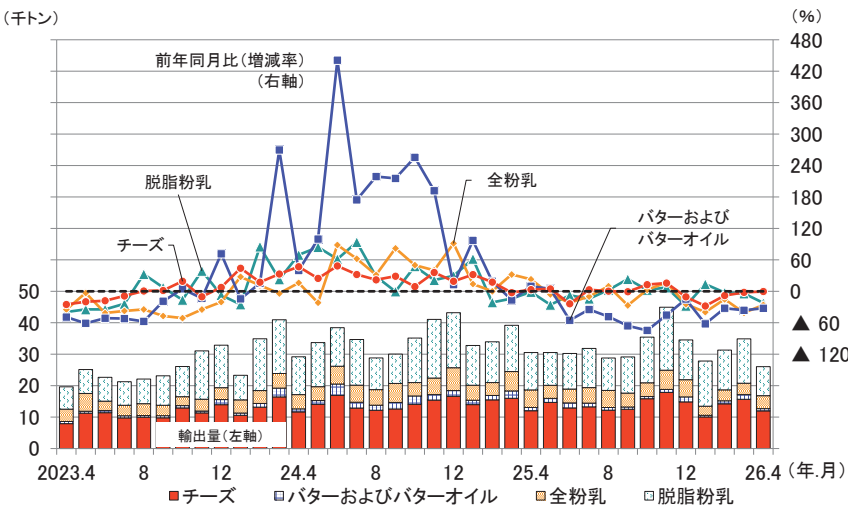
表 乳製品輸出量の推移

（単位：トン）

品目	2025年 4月	26年 4月	前年同月比 (増減率)	25/26年度 (7月～翌4月)	
				25/26年度 (7月～翌4月)	前年度比 (増減率)
脱脂粉乳	11,367	9,232	▲18.8%	131,822	▲2.7%
全粉乳	5,396	4,122	▲23.6%	44,847	▲16.1%
バターおよびバターオイル	1,001	718	▲28.2%	9,621	▲46.1%
チーズ	11,908	11,970	0.5%	138,395	▲1.7%

資料：DA
注：製品重量ベース。

図2 乳製品輸出量および前年同月比（増減率）の推移



資料：DA
注：製品重量ベース。

（調査情報部）

25/26年度の生乳生産量は過去最高を記録

26年5月の生乳生産量、前年同月比3.6%増

ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2026年5月の生乳生産量は102万3000トン（前年同月比3.6%増）と、13カ月連続で前年同月を上回った（図1）。また、25/26年度（6月～翌5月）の生乳生産量も、2239万6000トン（前年度比3.6%増）と前年度を上回り、過去最高を記録した。

この要因についてニュージーランド証券取引所（NZX）は、生乳生産の終盤に差し

掛かる中、例年であれば生産者は乾乳の準備を進める時期にあるものの、1）生産者支払乳価が高い水準であったこと、2）牧草生育に適した環境が続いたこと、3）補助飼料や肥料を購入する余力があったこと一を背景に生産者が搾乳を継続したためとしている。

今後の生乳生産の見通しについてNZXは、中東情勢を背景とした生産コストの上昇に加え、エルニーニョ現象の影響による牧草生育環境の悪化が下押し要因となる可能性を指摘している。

26年5月の乳製品輸出量、バターおよびバターオイルを除く主要3品目で増加

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2026年5月の乳製品輸出量は、バターおよびバターオイルを除く主要3品目が前年同月を上回った（表、図2）。品目別に見ると、バターおよびバターオイルはオランダ向けが大幅に減少したため、輸出量は前年同月を下回った。一方で、脱脂粉乳はフィリピン向け、全粉乳は中国、インドネシア向け、チーズは中国向けがそれぞれ大幅に増加したことにより、いずれも輸出量は前年同月を

図1 生乳生産量の推移

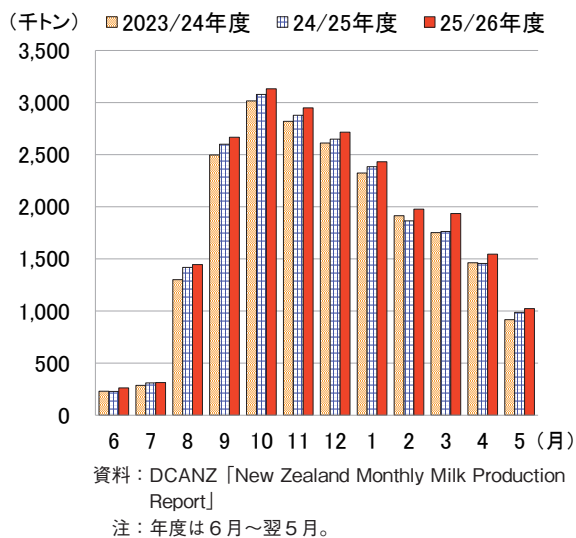


表 乳製品輸出量の推移

（単位：トン）

品目	2025年 5月	26年 5月	前年同月比 (増減率)	25/26年度 (6月～翌5月)	前年度比 (増減率)
脱脂粉乳	30,048	38,564	28.3%	406,513	0.4%
全粉乳	99,503	143,058	43.8%	1,354,698	11.0%
バターおよびバターオイル	45,128	44,232	▲ 2.0%	446,895	6.2%
チーズ	40,037	44,440	11.0%	384,372	▲0.2%

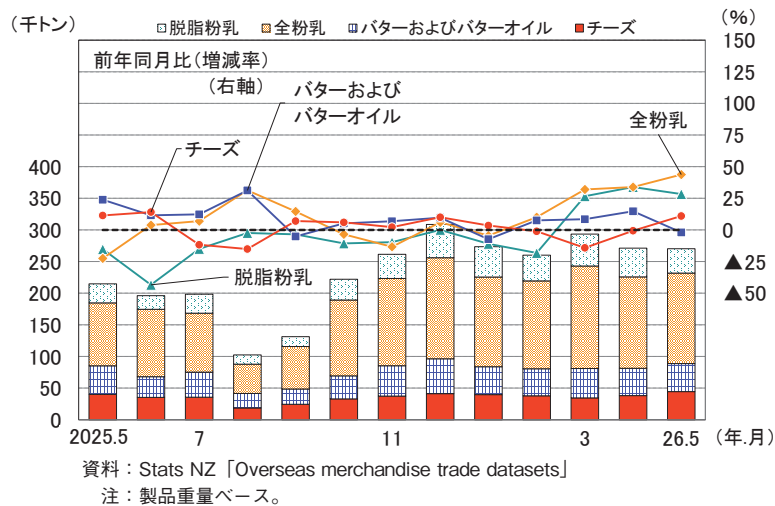
資料：Stats NZ「Overseas merchandise trade datasets」

注1：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405.90、チーズが0406。

注2：製品重量ベース。

上回った。25/26年度（6月～翌5月）の 前年度を上回った。
乳製品輸出量は、チーズを除く主要3品目が

図2 乳製品輸出量および前年同月比（増減率）の推移



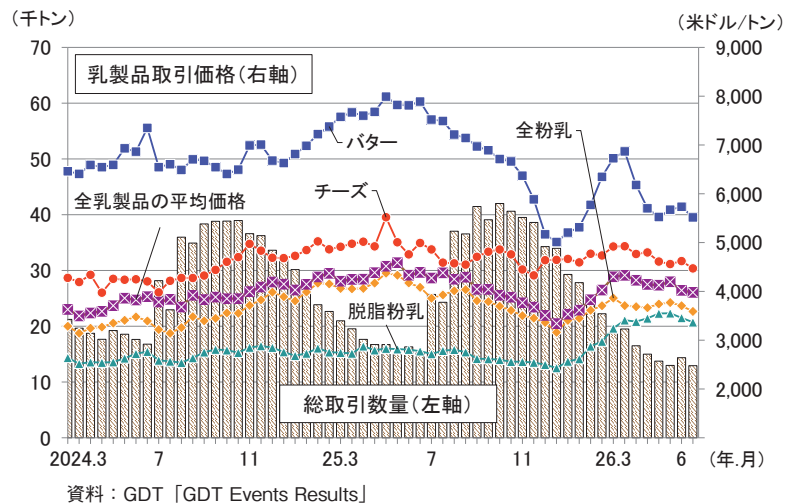
26年6月16日のGDT平均取引価格、 主要4品目が前回を下回る

2026年6月16日開催のGDT^(注1) 平均取引価格は、主要4品目すべてが前回開催時（26年6月2日）を下回った（図3）。取引全体では、全乳製品の平均取引価格は1トン当たり3979米ドル（65万129円、1米ドル＝163.39円^(注2)、前回比1.0%安）とわずかに下落した。

NZXによると、NZなど主要乳製品生産地域での堅調な生産により供給が増加したことで需給が緩和し、市場価格の下落傾向が強まったことが影響したとしている。

（注1）グローバルデイリートレード。月2回開催される電子オークションで、当該価格は乳製品の国際価格の指標とされている。
（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年6月末TTS相場。

図3 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



（調査情報部）

飼料穀物

世界

26/27年度の期末在庫はかなりの程度減少

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および同省海外農業局（USDA/FAS）は2026年6月11日、2026/27年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した（表）。

これによると、同年度の世界のトウモロコシ生産量は13億38万トン（前年度比2.0%減）と前月から500万トン上方修正された。このうち、主要国（地域）はいずれも据え置かれたものの、インドの増加見込みが反映された。

輸入量は、世界全体で1億9963万トン（同1.0%増）と前月から104万トン上方修正された。主要輸入国（地域）はいずれも据え置かれたものの、メキシコやエジプトなどの

増加見込みが反映された。

消費量は、世界全体で13億2252万トン（同0.2%増）と前月から773万トン上方修正され、過去最高を更新し、生産量を上回ると見込まれている。主要国ではブラジルやアルゼンチンの増加見込みが反映された。

輸出量は、世界全体で2億761万トン（同4.3%減）と前月から70万トン上方修正された。主要国（地域）はいずれも据え置かれたものの、インドや南アフリカの増加見込みが反映された。

この結果、期末在庫は、前月から米国やアルゼンチンなどで増加が見込まれることから、2億8122万トン（同7.3%減）と前月から368万トン上方修正された。

表 主要国のトウモロコシの需給見通し（2026年6月11日米国農務省公表）

（単位：万トン）

国名	2024/25年度	25/26年度 (推計値)	26/27年度			
			(5 月 予測)	(6 月 予測)	前年度比 (増減率)	
米国	期首在庫	4,479	3,940	5,441	5,448	38.3%
	生産量	37,827	43,234	40,629	40,629	▲6.0%
	輸入量	55	71	64	64	▲9.9%
	消費量	31,160	33,352	33,161	33,161	▲0.6%
	輸出量	7,260	8,446	8,001	8,001	▲5.3%
	期末在庫	3,940	5,448	4,971	4,978	▲8.6%
ブラジル	期首在庫	735	1,160	1,158	1,230	6.0%
	生産量	13,600	13,800	13,900	13,900	0.7%
	輸入量	176	170	180	180	5.9%
	消費量	9,150	9,600	9,700	9,800	2.1%
	輸出量	4,201	4,300	4,400	4,400	2.3%
	期末在庫	1,160	1,230	1,138	1,110	▲9.8%
アルゼンチン	期首在庫	246	530	381	471	▲11.1%
	生産量	4,900	6,100	5,500	5,500	▲9.8%
	輸入量	1	1	1	1	0.0%
	消費量	1,710	1,860	1,730	1,770	▲4.8%
	輸出量	2,907	4,300	3,800	3,800	▲11.6%
	期末在庫	530	471	351	401	▲14.9%
ウクライナ	期首在庫	54	84	275	275	227.4%
	生産量	2,680	3,090	3,000	3,000	▲2.9%
	輸入量	2	1	1	1	0.0%
	消費量	650	700	720	720	2.9%
	輸出量	2,002	2,200	2,300	2,300	4.5%
	期末在庫	84	275	256	256	▲6.9%
E U	期首在庫	729	588	508	508	▲13.6%
	生産量	5,959	5,680	5,750	5,750	1.2%
	輸入量	1,876	1,850	1,950	1,950	5.4%
	消費量	7,700	7,420	7,480	7,480	0.8%
	輸出量	276	190	190	190	0.0%
	期末在庫	588	508	538	538	5.9%
中国	期首在庫	21,119	19,193	17,815	17,815	▲7.2%
	生産量	29,492	30,124	30,700	30,700	1.9%
	輸入量	182	600	600	600	0.0%
	消費量	31,600	32,100	32,500	32,500	1.2%
	輸出量	0	2	2	2	0.0%
	期末在庫	19,193	17,815	16,613	16,613	▲6.7%
世界計	期首在庫	31,388	29,598	29,695	30,336	2.5%
	生産量	123,320	132,667	129,538	130,038	▲2.0%
	輸入量	18,614	19,759	19,859	19,963	1.0%
	消費量	125,111	131,929	131,479	132,252	0.2%
	輸出量	18,713	21,700	20,691	20,761	▲4.3%
	期末在庫	29,598	30,336	27,754	28,122	▲7.3%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月/ウクライナ、EU、中国：10月～翌9月/アルゼンチン、ブラジル：3月～翌2月。

（調査情報部）

大豆の生産量は下方修正となるも、期末在庫は上方修正

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および同省海外農業局（USDA/FAS）は2026年6月11日、2026/27年度の世界の大豆需給予測値を公表した（表）。

これによると、同年度の世界の大豆生産量は4億4134万トン（前年度比2.8%増）と前月から20万トン下方修正された。このうち、最大の生産国であるブラジルは1億

表 主要国の大豆需給見通し（2026年6月11日米国農務省公表）

（単位：万トン）

国名	2024/25 年度	25/26年度 (推計値)	26/27年度			
			(5 月 予 測)	(6 月 予 測)	前年度比 (増減率)	
米国	期首在庫	932	884	925	925	4.6%
	生産量	11,905	11,599	12,070	12,070	4.1%
	輸入量	79	68	68	68	0.0%
	消費量	6,655	7,212	7,484	7,484	3.8%
	輸出量	5,123	4,110	4,436	4,436	7.9%
	期末在庫	884	925	844	844	▲8.8%
ブラジル	期首在庫	2,976	3,769	3,769	3,769	0.0%
	生産量	17,250	18,000	18,600	18,600	3.3%
	輸入量	73	90	80	80	▲11.1%
	消費量	5,816	6,150	6,500	6,500	5.7%
	輸出量	10,314	11,500	11,750	11,750	2.2%
	期末在庫	3,769	3,769	3,739	3,739	▲0.8%
アルゼンチン	期首在庫	2,405	2,467	2,332	2,382	▲3.4%
	生産量	5,111	5,000	5,000	5,000	0.0%
	輸入量	632	705	650	650	▲7.8%
	消費量	4,324	4,200	4,300	4,300	2.4%
	輸出量	787	900	600	620	▲31.1%
	期末在庫	2,467	2,382	2,392	2,422	1.7%
中国	期首在庫	4,331	4,449	4,437	4,437	▲0.3%
	生産量	2,065	2,090	2,100	2,100	0.5%
	輸入量	10,800	11,200	11,400	11,400	1.8%
	消費量	10,350	10,800	11,000	11,000	1.9%
	輸出量	7	12	10	10	▲16.7%
	期末在庫	4,449	4,437	4,427	4,427	▲0.2%
世界計	期首在庫	11,514	12,600	12,513	12,552	▲0.4%
	生産量	42,793	42,920	44,154	44,134	2.8%
	輸入量	17,918	18,501	18,802	18,802	1.6%
	消費量	35,914	37,111	38,314	38,309	3.2%
	輸出量	18,406	18,675	18,922	18,922	1.3%
	期末在庫	12,600	12,552	12,478	12,488	▲0.5%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月/ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌9月。

注2：消費量は搾油仕向量である。

8600万トン（同3.3%増）、これに次ぐ米国は1億2070万トン（同4.1%増）と、いずれも前月から据え置かれたものの、ロシアの収穫面積の減少による減産見込みが反映された。

輸入量は、世界全体で1億8802万トン（同1.6%増）と前月から据え置かれた。このうち、最大の輸入国である中国も1億1400万トン（同1.8%増）と前月から据え置かれた。

消費量（搾油仕向け）は、世界全体で3億8309万トン（同3.2%増）と前月から5万トン下方修正された。このうち、最大の消費国である中国は1億1000万トン（同1.9%増）と前月から据え置かれた。

輸出量は、世界全体で1億8922万トン（同1.3%増）と前月から据え置かれた。このうち、最大の輸出国であるブラジルは1億

1750万トン（同2.2%増）、これに次ぐ米国は4436万トン（同7.9%増）と、いずれも前月から据え置かれた。

期末在庫は、生産量が前月から下方修正されたものの、アルゼンチンの期末在庫の上方修正などから、世界全体では1億2488万トン（同0.5%減）と前月から10万トン上方修正された。

今回の予測値に関して、大豆の国際相場に影響を与える中国の輸入量に目を向けると、同日付で中国農業農村部が公表した26/27年度の同国の大豆輸入量9550万トンとUSDAの予測値には、引き続き1850万トンの乖離^{かいり}がある。

（調査情報部）

米 国

米国は生産量の減少などから期末在庫はかなりの程度減少

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）は2026年6月11日、2026/27年度（9月～翌8月）の米国のトウモロコシ需給予測値を更新した（表）。この中で、期首在庫量が前月から300万ブッシェル（8万トン）上方修正されたこと、これに伴い総供給量および期末在庫量が上方修正されたことを除き、すべての数値が前月から据え置かれた。

26/27年度の実産量は、収穫面積と単収の減少から159億9500万ブッシェル（4億629万トン^{（注1）}、前年度比6.0%減）と前年度からかなりの程度減少すると見込まれている。

消費量は、飼料等向けの減少により130

億5500万ブッシェル（3億3161万トン、同0.6%減）と前年度からわずかに減少すると見込まれている。

輸出量は、生産減もあり、31億5000万ブッシェル（8001万トン、同5.3%減）と前年度からやや減少すると見込まれているものの、依然として米国は世界最大の輸出国である。

この結果、期末在庫は、19億6000万ブッシェル（4979万トン、同8.6%減）と前年度からかなりの程度減少すると見込まれている。

また、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は、12.1%（同0.9ポイント減）と、前年度を下回ると見込まれている。

生産者平均販売価格は、1 ブッシェル当たり4.40米ドル（719円。1 キログラム当たり28円：1 米ドル＝163.39円^{（注2）}、同6.0%高）と前年度からかなりの程度上昇すると見込まれている。

こうした中で、米国農務省全国統計局（USDA/NASS）が同年6月30日付けで公表した農作物作付面積報告書によると、トウモロコシの26/27年度の作付面積は9534万エーカー（3858万ヘクタール^{（注3）}、同3.5%

減）と予測されている。

なお、USDA/NASSが同日付けで公表した同年6月1日時点の在庫量は、52億9500万ブッシェル（1億3450万トン、同14.0%増）となった。

（注1）1 ブッシェルを約25.401キログラムとして農畜産業振興機構が換算。

（注2）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年6月末TTS相場。

（注3）1 エーカーを約0.4047ヘクタールとして農畜産業振興機構が換算。

表 米国のトウモロコシの需給見通し（2026年6月11日米国農務省公表）

区分	－単位－	2024/25 年度	25/26 年度 (推計値)	26/27年度			前年度比 (増減率)
				(5月予測)	(6月予測)	参考（換算値）	
作付面積	(万エーカー)	9,090	9,880	9,530	9,530	3,857（万ヘクタール）	▲3.5%
収穫面積	(万エーカー)	8,300	9,130	8,740	8,740	3,537（万ヘクタール）	▲4.3%
単収	(ブッシェル/エーカー)	179	187	183	183	11（トン/ヘクタール）	▲1.9%
期首在庫	(万ブッシェル)	176,300	155,100	214,200	214,500	5,449（万トン）	38.3%
生産量	(万ブッシェル)	1,489,200	1,702,100	1,599,500	1,599,500	40,629（万トン）	▲6.0%
輸入量	(万ブッシェル)	2,200	2,800	2,500	2,500	64（万トン）	▲10.7%
総供給量	(万ブッシェル)	1,667,700	1,860,000	1,816,200	1,816,500	46,141（万トン）	▲2.3%
国内消費量	(万ブッシェル)	1,226,700	1,313,000	1,305,500	1,305,500	33,161（万トン）	▲0.6%
飼料等向け	(万ブッシェル)	545,400	620,000	610,000	610,000	15,495（万トン）	▲1.6%
食品・種子・その他工業向け	(万ブッシェル)	681,400	693,000	695,500	695,500	17,666（万トン）	0.4%
うちエタノール向け	(万ブッシェル)	543,600	557,500	560,000	560,000	14,225（万トン）	0.4%
輸出货量	(万ブッシェル)	285,800	332,500	315,000	315,000	8,001（万トン）	▲5.3%
総消費量	(万ブッシェル)	1,512,600	1,645,500	1,620,500	1,620,500	41,162（万トン）	▲1.5%
期末在庫	(万ブッシェル)	155,100	214,500	195,700	196,000	4,979（万トン）	▲8.6%
期末在庫率	(%)	10.3	13.0	12.1	12.1		0.9ポイント減
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	4.24	4.15	4.40	4.40	28.30（円/kg）	6.0%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：年度は各年9月～翌8月。

注2：1 ブッシェルは約25.401キログラム、1 エーカーは約0.4047ヘクタール。

注3：換算値は端数処理の関係で表と一致しない場合がある。

（調査情報部）

ブラジル

25/26年度の大豆生産量は過去最大の見込み

ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）は2026年6月11日、25/26年度（9月～翌8月に^{はしゆ}播種されるもの）第9回目となる主要穀物の生産状況等調査結果を公表した。この調査は、春植えの夏期作物（大豆、第1期作トウモロコシなど）や秋植えの冬期作物（第2期作・第3期作トウモロコシ、小麦、大麦、ライ麦など）の生産予測などを毎月公表するものである。

25/26年度のトウモロコシ生産量、過去最大の前年度に次ぐ高水準

2025/26年度のトウモロコシ生産量は、前回調査（26年5月）に続いて上方修正（前回比29万1000トン増）され、過去最大となった24/25年度に次ぐ1億4046万3000トン（前年度比0.5%減）と見込まれている（表1、図1・2）。

表1 2025/26年度の主要穀物等の生産予測

項目	作付面積（万ha）				単収（トン/ha）				生産量（万トン）			
	2024/25年度	25/26年度			24/25年度	25/26年度			24/25年度	25/26年度		
		（5月予測）	（6月予測）	前年度比（増減率）		（5月予測）	（6月予測）	前年度比（増減率）		（5月予測）	（6月予測）	前年度比（増減率）
穀物合計	8,173.5	8,351.9	8,349.4	2.2%	4.3	4.3	4.3	▲0.3%	35,226.6	35,797.3	35,863.7	1.8%
トウモロコシ	2,183.8	2,255.6	2,258.2	3.4%	6.5	6.2	6.2	▲3.8%	14,115.8	14,017.1	14,046.3	▲0.5%
第1期作	377.3	408.8	412.7	9.4%	6.6	7.0	7.1	7.6%	2,493.6	2,846.1	2,933.8	17.7%
第2期作	1,743.0	1,779.1	1,777.8	2.0%	6.5	6.1	6.1	▲6.6%	11,322.8	10,845.5	10,786.5	▲4.7%
第3期作	63.5	67.7	67.8	6.7%	4.7	4.8	4.8	2.0%	299.4	325.5	326.0	8.9%
大豆	4,734.6	4,871.7	4,856.3	2.6%	3.6	3.7	3.7	2.5%	17,148.1	18,013.0	18,025.3	5.1%

資料：CONAB

注1：2026年6月11日公表データ。

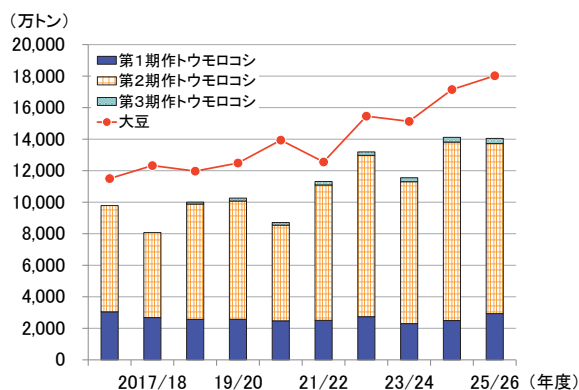
注2：第1期作トウモロコシは、例年、9月ごろから南部より順次播種され、翌5月ごろまでに収穫をほぼ終える。

注3：第2期作トウモロコシは、主に中西部と南部パラナ州で1～3月にかけて播種が行われ、6～9月に収穫される。

注4：第3期作トウモロコシは、主に北部と北東部で5～6月にかけて播種が行われ、10～11月ごろに収穫される。

注5：大豆は、10月ごろから順次播種され、翌5月ごろまでに収穫をほぼ終える。

図1 トウモロコシと大豆の生産量の推移

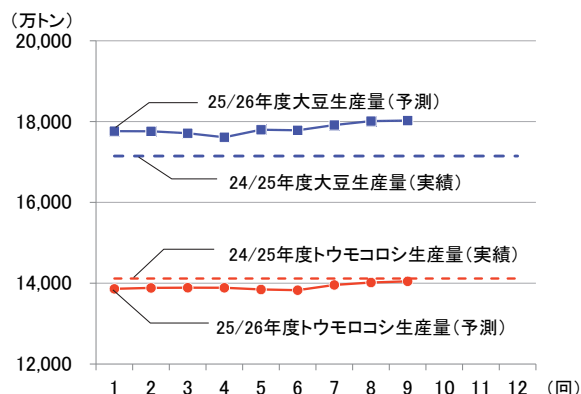


資料：CONAB

注1：2025/26度は予測値。

注2：26年6月11日公表データ。

図2 2025/26年度の生産予測の推移



資料：CONAB

注：生産予測の第1回は2025年10月公表、以降毎月更新。

内訳を見ると、全生産量の2割を占める第1期作の生産量は、前回から87万7000トン上方修正され、前年度を大幅に上回る2933万8000トン（同17.7%増）と見込まれている。5月に降水量が減少したことで穀粒の乾燥が進み、収穫作業は順調に進展した。その結果、6月上旬時点では、作付面積全体の87.7%で収穫が完了した。適期播種が実施されたことに加え、生育期間中の天候にも恵まれたことから、各州で高単収が見込まれている。中でも、ゴイアス州、ミナスジェライス州、パラナ州では、過去最高の単収となる見通しである。

一方、全生産量の8割弱を占める第2期作の生産量は、前回から59万トン下方修正され、1億786万5000トン（同4.7%減）と見込まれている。気候条件は全体としておお

むね良好とされるものの、主産地である中西部では、4月中旬から5月末にかけて降雨量が不足し、播種の遅れたトウモロコシの生育に影響が生じた。なお、播種が早かった州ではすでに収穫が始まっているが、6月上旬時点の収穫進捗率は、作付面積全体の3.0%にとどまっている。

25/26年度のトウモロコシの需給を見ると、消費量は、国内のエタノール向け需要の拡大を背景に、前年度をやや上回る水準が見込まれる。また、輸出量も、好調な生産見通しに支えられ、高水準を維持する見込みである。期末在庫は、生産量の上方修正を受けて、1325万トン（同6.3%増）に上方修正され、前年度をかなりの程度上回る見込みとなっている（表2）。

表2 ブラジルのトウモロコシ需給動向

（単位：万トン）

項目	2023/24年度	24/25年度	25/26年度		
			（5月予測）	（6月予測）	前年度比 （増減率）
期首在庫	720.1	177.4	1,246.9	1,246.9	603.0
生産量	11,553.5	14,115.8	14,017.1	14,046.3	▲0.5
輸入量	164.5	184.6	170.0	170.0	▲7.9
総供給量	12,438.1	14,477.7	15,434.0	15,463.1	6.8
消費量	8,410.6	9,067.7	9,486.3	9,488.1	4.6
輸出量	3,850.1	4,163.2	4,650.0	4,650.0	11.7
総需要量	12,260.7	13,230.8	14,136.3	14,138.1	6.9
期末在庫	177.4	1,246.9	1,297.7	1,325.0	6.3

資料：CONAB

注：2026年6月11日公表データ。

25/26年度の大豆生産量、2期連続で過去最大を更新

2025/26年度の大豆生産量は、前回調査から12万3000トン上方修正され、1億8025万3000トン（前年度比5.1%増）と前年度をやや上回り、2期連続で過去最大を

更新すると見込んでいる（表1、図1・2）。収穫作業は、6月上旬時点で作付面積全体の99.8%に達している。一部地域では、特定の時期に降雨の不足や過剰といった悪天候の影響を受けたものの、大半の州において、単収は前年度を超える水準にある。

25/26年度の大豆需給を見ると、生産量

が上方修正された一方で、堅調な輸出および加工需要が見込まれることから、期末在庫は102万7000トン下方修正され、927万8000トン（同7.0%減）と前年度をかなりの程度下回る見込みとなっている（表3）。なお、現在延期されているディーゼル燃料に

対するバイオディーゼル混合率の15%から16%への引き上げ措置が講じられない場合、加工量の一部が輸出に振り向けられることで、在庫調整が行われる可能性があるとしている。

表3 ブラジルの大豆需給動向

（単位：万トン）

項目	2023/24年度	24/25年度	25/26年度		
			（5月予測）	（6月予測）	前年度比（増減率）
期首在庫	1,103.4	723.1	997.5	997.5	37.9
生産量	15,128.3	17,148.1	18,013.0	18,025.3	5.1
輸入量	82.1	96.9	50.0	50.0	▲48.4
総供給量	16,313.8	17,968.1	19,060.4	19,072.7	6.1
種子/その他	342.7	363.9	375.4	376.3	3.4
輸出量	9,881.5	10,818.1	11,602.5	11,610.5	7.3
加工量	5,366.5	5,788.6	6,052.0	6,158.2	6.4
総需要量	15,590.7	16,970.6	18,030.0	18,144.9	6.9
期末在庫	723.1	997.5	1,030.5	927.8	▲7.0

資料：CONAB
注：2026年6月11日公表データ。

（調査情報部）

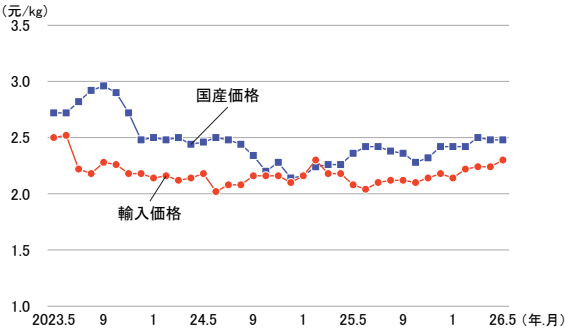
中国

トウモロコシおよび大豆の価格動向

26年5月の国産トウモロコシ価格、前月並み

中国農業農村部は2026年6月24日、「農産物需給動向分析月報（2026年5月）」を公表した。この中で、同年5月の国産トウモロコシ価格は前月並みとされた（図1）。同月のトウモロコシ需給について、国内の供給が潤沢である一方、飼料用やコーンスターチ製造企業などによる工業用の需要は安定基調ながら、いずれも前月比で減少したと報告されている。今後の見通しについて、市場への

図1 トウモロコシ価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成
注1：国産価格は、中国東北部から広東省黄埔港までの運賃込み2級黄トウモロコシ価格。
注2：輸入価格は、米国メキシコ湾積出し2級黄トウモロコシの広東省黄埔港引渡し価格（関税割当数量内：課税後）。

穀物供給が潤沢であることに加え、こうりゃんや大麦といった代替飼料の輸入が増加していることなどから、短期的な国産トウモロコシ価格は、横ばいからやや弱含みで推移すると見込まれている。

輸入トウモロコシ価格を見ると、養豚主産地の中国南部向け飼料原料集積地となる^{かんとう}広東省^{こうほ}黄埔港到着価格は、26年5月が1キログラム当たり2.30元（56円：1元＝24.17円^{（注）}、前月比2.7%高）とわずかに上昇した。また、同月の国産トウモロコシ価格（東北部産の同港到着価格）は同2.48元（60円、前月比0.0%）となり、国産価格が横ばいで推移する中で輸入価格が上昇したことから、輸入と国産の価格差は縮小した。

26年5月の国産大豆価格も前月並み

2026年5月の国産大豆価格も国産トウモロコシ価格と同様、前月並みとされた（図2）。同月の大豆需給について、気温の上昇により大豆各製品の消費が季節的な閑散期に入り、製造企業は需要に応じた調達にとどまったことから、在庫積み増しへの意欲は乏しく、市場全体の取引は低調だったと報告されている。一方で、主産地である東北部の在庫が

ほぼ枯渇していることなどから、同産地の大豆価格は、小幅ながら上昇したとされている。今後の動向について、市場が閑散期に入居中、短期的な国産大豆価格は安定して推移すると見込まれている。

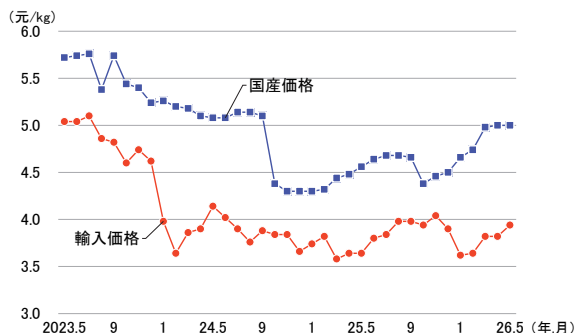
各地の価格動向を見ると、主産地である^{こくりゅうこう}黒竜江省の食用向け国産大豆平均取引価格は、26年5月が1キログラム当たり4.64元（112円、前年同月比16.5%高）と前年同月から大幅に上昇したものの、前月比ではわずかな上昇にとどまった。また、大豆の国内指標価格の一つとなる^{さんとう}山東省の国産大豆価格は、同5.00元（121円、同9.6%高）と前年同月からかなりの程度上昇したものの、前月比では横ばいとなった。同月の輸入大豆価格は同3.94元（95円、前月比3.1%高）とやや上昇したものの、国産価格が前月並みとなったことから、輸入と国産の価格差は縮小した。

国際相場に影響する中国の大豆輸入量は、前年水準を上回っている。26年（1～4月）の輸入量は、2515万トン（前年同期比8.5%増）とかなりの程度増加した。また、輸入額も、前年同期比14.3%増の120億9900万米ドル（1兆9769億円：1米ドル＝163.39円^{（注）}）とかなり大きく増加したと報告されている。主な輸入先は、ブラジル（総輸入量の50.6%）、米国（同26.5%）、アルゼンチン（同14.6%）である。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年6月末TTS相場。

（調査情報部）

図2 大豆価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、山東省入荷価格。

注2：輸入価格は、山東省青島港引渡し価格（課税後）。